

ダニから感染する病気に注意しましょう

マダニ類やツツガムシ類は、主に森林や草地等の屋外に生息する吸血性のダニです。これらのダニは病原体を持っていることがあり、咬まれると感染する恐れがあります。特に、ダニの活動がさかんな春から秋にかけては注意が必要です。

●マダニについて

マダニ類は、固い外皮に覆われた比較的大型（吸血前で 3～4mm）のダニで、広くアジアやオセアニアに分布しますが、日本でも全国的に分布しています。

食品等に発生するコナダニ、衣類や寝具に発生するヒョウヒダニなど、家庭内に生息するダニとは種類が異なります。（コナダニやヒョウヒダニは 0.2～0.5mm くらいの大きさです。）

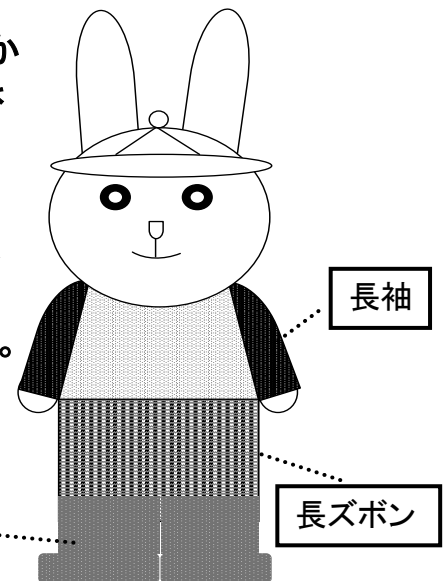


マダニ

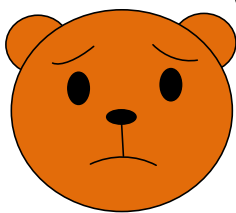
【写真：大阪市立環境科学研究所提供】

●予防するには？

- ☆マダニ類に咬まれないようにすることが重要です。（ヒトからヒトへの感染はありません。）特にマダニ類の活動がさかんな春から秋にかけては注意しましょう。
- ☆草むらや藪など、マダニ類が多く生息する場所に入る場合には、長袖、長ズボン、足を完全に覆う靴を着用し、肌の露出を少なくすることが大切です。
- ☆屋外活動後はダニに刺されていないか確認してください。
- ☆現在のところ、SFTS、ツツガムシ病、ライム病、日本紅斑熱に対する有効なワクチンはありません。



●もしダニに咬まれたら？



- ☆吸血中のダニに気がついた際は、できるだけ病院で処置してもらいましょう。無理に引き抜くとダニの一部が皮膚の中に残る場合があります。
- ☆ダニに咬まれた後に発熱等の症状が出た場合は、病院を受診しましょう。

【問い合わせ先】

各区保健福祉センター

大阪市保健所感染症対策課 Tel 06-6647-0656 Fax 06-6647-1029

●どんな病気があるの？

★重症熱性血小板減少症候群(SFTS)★

2009年頃から中国で発生が報告され、2011年に初めて原因ウイルス(SFTSウイルス)が特定された疾患です。マダニによって媒介されます。

【主な症状】

原因不明の発熱、消化器症状(食欲低下、下痢、嘔吐等)、時に頭痛、筋肉痛、神経症状(意識障害、けいれん、昏睡)、出血症状(紫斑、下血)等を起こします。

【潜伏期間】

6日～14日

【治療】

抗ウイルス薬はなく、対症療法

★ツツガムシ病★

オリエンティア・ツツガムシを原因菌とするリケッチア症で、ダニの一種であるツツガムシによって媒介されます。東北・北陸地方では春から初夏に、関東から九州地方では秋から初夏にかけて患者が多く、国内で年間約300件の報告があります。

【主な症状】

39℃以上の発熱とその数日後に発疹、その他頭痛、リンパ節腫脹等を起こします。

【潜伏期間】

5日～14日

【治療】

適切な抗菌剤の投与



★ライム病★

ボレリアを原因菌とする細菌感染症です。マダニによって媒介されます。国内では主に本州中部以北の山間部で、夏から初秋にかけて発生しています。国内での発生はまれですが、欧米では年間数万人もの患者発生があり、海外渡航感染症としても注意が必要です。

【主な症状】

感染初期:ダニに咬まれた部分を中心とする限局的な遊走性紅斑(※)とインフルエンザ様症状(発熱、倦怠感等)

播種期:遊走性紅斑、神経症状、関節炎等

慢性期:慢性脳脊髄炎、慢性関節炎等の症状を起こします。

【潜伏期間】

数日～数週間

【治療】

適切な抗菌剤の投与

★日本紅斑熱★

リケッチア・ジャポニカを原因菌とするリケッチア症です。マダニによって媒介されます。紅斑熱群リケッチア症と呼ばれる病気のひとつで、関東から九州地方にかけて発生がみられます。夏がピークで春から秋にかけて発生が多く、国内で年間約100件の報告があります。

【主な症状】

発熱、発疹

【潜伏期間】

2日～8日

【治療】

適切な抗菌剤の投与



※遊走性紅斑とは？

ダニに咬まれた部分を中心に拡大していく紅斑(皮膚が赤くなること)です。